なかよし・けんこう・どりょく

令和8年2月27日

天見小校長室だより　3月号

天 見 小 学 校

人の温かみが感じられる学校　みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

今年は、平年より寒いと感じながらも、なかなか毎年のような雪が降らず、雨の少ない乾燥した冬だなと思っていました。２月初めの土日に津々と天見の里にも雪が降り積もり、天見らしい冬景色を見ることができました。学校は当たり一面雪で、真っ白になった運動場が光に反射してとてもきれいでしたが、歩いてくる子どもたちや車で出勤している先生方にとっては、大変な一日となりました。滑ってこけないように細心の注意を払いながらみな元気に学校に来てくれました。運動場には、人が乗れるくらいの大きな雪玉が４玉５玉と出来ており、玄関には、小さめの雪だるまが何体も並んでいるのがとてもかわいく、みなそれぞれに雪の天見を楽しんだようです。河内長野市の中でも「寒くてここまで雪深い小学校」は少ないと思います。一年に何回か雪と戯れることができる体験は天見ならではの四季を感じることができる特徴だと思います。

三寒四温とも言いますが、最近では春のように温かな日と冬の寒さが厳しい日が、交互に訪れています。この寒暖の差でほかの学校ではインフルエンザ流行で学級閉鎖の話もちらほらと聞こえてきますが、まだ天見にはインフルエンザ流行の兆しはないです。

天見の初春の訪れを感じるのは、八幡神社を通り過ぎ十三仏をさらに超えて少し上に上がったところに「蝋梅の里」と言って黄色い梅の花がきれいに咲いているところがあります。梅と言えば、ピンクや白のイメージがありますが、蝋梅は黄色い小さな花で、とても美しく、天見の里を彩ります。休日にはたくさんの人が見に来られています。そろそろ、花も終わりごろだと思います。お休みの日に、ちょっと見に行かれてみてはどうでしょうか。

卒業生と地域の方との茶話会

２月１２日（木）に、卒業生が「地域でお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたい。」と、茶話会を開きました。お世話になった地域の方々もたくさん参加して下さり、和やかな雰囲気の元、卒業生主催で楽しい一時間を過ごしました。

入学したころから、今までの成長記録を子どもたちが劇で紹介してくれました。劇は１年生入学のころの話から始まりました。思い返すと、今年の卒業生が１年生入学の年は、コロナの流行で学校が長期休校になってしまうという今までに経験したこともない、とんでもない一年の始まりでした。初めて登校できたのは、６月のはじめだったこと思います。着る服がTシャツ 一枚になる暑いころからの始まりでした。重いランドセルが肩に食い込み痛そうで、おまけに初夏の暑さとそれまでのパンデミックの中の生活とのギャップがあり、登下校に慣れるにも、身体の疲れが大変だったのではないかと思います。本来なら６月と言えば、だんだん学校生活にも慣れてきたころであるのに、２か月遅れでのスタートで、長期休校と喜んでばかりではいられない、我々教職員も学校での毎日の時間がどれだけ大切な時間であるかということを知った年でした。あの日からもう６年が過ぎたのですね。時間が流れるのがとても早く感じます。

たくさんの思い出を話してくれました。てくてくテーリングでの話。泥んこ遊びや川遊び、田植えや稲刈り、遠足であべのハルカスの展望台に上った話。臨海学校や修学旅行での楽しかった思い出。縦割り野菜で植えた野菜の世話の話。リーダーとして活躍したこの一年間の話。藁のリースつくりの話。下校中の電車で語らう形で、思い出を劇にして見せてくれました。

次に親指を立てた数を当てる「指スマ対決」ゲームで盛り上がり、最強王は公民館の館長、最弱王にもメダルをくれました。楽しい笑顔がいっぱいになったひと時でした。時間を惜しみながら最後に、６年生からの歌のプレゼントがありました。いつ聞いても素敵な歌声、次の学年に伝統として残してくれた歌声にほろっと来る時間でした。地域の方からも６年生とじかに交流できてよかったとたくさんの感想をいただき、本当にやってよかったなあと思う、心のこもった素敵な一時間でした。

お忙しい中、参加してくださった皆さん、どうもありがとうございました。この取り組みは、昨年にはなかった取り組みで、こうやって心と心のつながりができる取り組みがどんどん増えていくといいなあと感じました。

１年生、２年生が頑張った新入生体験入学

来年度、なんと天見小学校に１２名の新入生が入ってきてくれます。新１年生をお迎えするのに、１年生がどれだけの準備をし、楽しませることができたか、またそれをフォローする２年生のさらなるお兄さんお姉さんぶりに、私はものすごい感動を覚えました。学校の中で一番下級生である１年生も立派に大きくなっていて、下の学年の子にいろんな気遣いができ、優しく声をかけている姿があり、とても素晴らしかったです。新入生をお迎えに来て、輪投げ、もぐらたたき、魚釣り、そして２年生が昔遊びコーナーを作って新１年生を楽しませてくれたのがとても素敵でした。

１月２９日（木）には、みのりこども園の子どもたちが学校訪問に来られました。３０人近くいる園児たちに、自分たちの作った物語をペープサートにして人形劇を演じたり、折り紙教室を開いたりして楽しませていたのが印象的で、１年生９人の成長を感じずにはいられませんでした。来年度、新２年生は立派に新１年生をエスコートしてくれるだろうと、なんだか安心した気持ちになりました。一年の成長を嬉しさいっぱいに感じた一日でした。

体験から心を動かされた一瞬を詩にして発表していました。

４年生が詩を作っていました。すべて読ませていただきました。４年生の子どもたちの生活が表れている詩ばかりでとてもよかったです。（例えば運動会のことだったり）掲載した詩は万博に行ったときに感じたことを詩にしたそうです。知らなかったことを知れた驚きを素直に表現されていていいなあと思いました。。

国はちがう

知らなかった　そんなこと
そんなに国があるなんて
豆つぶみたいに　小さい国や
太陽のように　大きい国

知らなかった　そんなこと
そんなに国があるなんて
山のように　人いる国や
殺風景の　人少ない国

知らなかった　そんなこと
そんなに国があるなんて
ガラスのように　きれいな服や
ライオンのように　かっこいい服

なんて素敵な詩なんでしょう。教科書に載せたいぐらいいろんな表現の工夫がされていて、世界の広さを感じさせる詩です。

① 「知らなかった　そんなこと　そんなに国があるなんて」・・・世界にはたくさんの国があることを地図帳などで見て初めて知った驚きがうまく表現されています。同じ表現から始まる詩が三連に分かれていて、リズムの良さを感じさせ、「どんな国のことを知ったの？」と次が知りたくなりました。

② 「どんな国か？」面積の大きさや人の数や着る服などでまとめているところが「なるほど！」と思います。

③ ②に書かれている双方の国の対比がとてもうまく、読んでいる人にもいろんな国があることが良く伝わってくるところがすごいです。